

## 富山信用金庫

# 国の施策終了後も 経営者研修会を自主継続 信用金庫が取り組む地域企業へのサポート

2012年8月2日、富山県富山市の第一共同印刷では、従業員が説明する「印刷のしくみ」を、約20名の経営者が熱心に聴いていた。地元・富山信用金庫の呼びかけに応じて過去3年間に経営者研修会に参加した「卒業生」が、定期的な交流・勉強の場である会社見学会に出席していたのだ。

### この満足度を多くの企業に届けたい

経済産業省が中小企業のIT経営を支援する施策として数年にわ



常務理事 岸和雄氏

たり開催してきたIT経営応援隊事業。経営者研修会やセミナーによって、経営改革のきっかけづくりを提供した。

富山信用金庫もその趣旨に賛同し、地元のITコーディネータ組織であるITC富山と連携。支店から取引先企業に声をかけ、4日間の経営者研修会を2009年から開催してきた。経営分析の手法を学びグループ討議を行い、最終日には自社の経営戦略をまとめる。

しかし、2011年度に国の支援策が打ち切りに。各地の研修会も多くは自然消滅していったが、同信用金庫は自身が費用を捻出し、研修会を継続している。

その理由を常務理事の岸和雄氏は次のように語る。

「初めは『借金に言われたので来た』という方も、研修会の最終

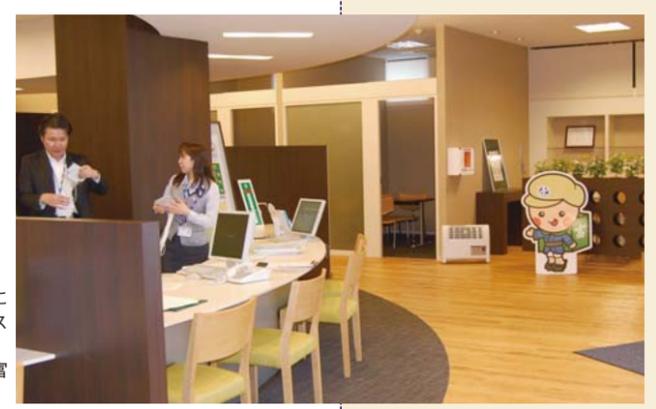
**概要**

**富山信用金庫**

富山県富山市室町通り1丁目1番32号  
創業：明治35年  
店舗数：34店舗（富山市27、高岡市1、射水市4、中新川郡2）  
役員数：380名（2012年3月31日現在）  
URL：  
<http://www.shinkin.co.jp/tomishin/>

日には堂々と経営戦略を発表され「来て良かった」とおっしゃいます。2年間で40名の方に機会を提供できましたが、逆に言うところ、40人「なのです」

金融機関には非金融面での支援の役割も求められる。岸常務理事は満足度の高い研修会を継続し、経営サポートを強化しようと考えたのだ。各支店長には研修会の説明を行い、また支店長自身が研修



富山信用金庫のB&Bコンサルティングスクエア。気軽に立ち寄り、お茶が飲めたり本が読めたりする交流スペースを提供。地域のよりよい相談窓口を目指している。右奥に見えるのは、イメージキャラクター「とみたん」。富山の葉売りをイメージしたキャラクターである。

同信用金庫理事の白田克己氏は、「次世代経営者の育成や事業承継支援も意図しています」という。

**交流会や同窓会で研修効果を高める工夫**

国の事業の際に研修の企画や運

営、講師を担ってきたITC富山（地域の専門家ITコーディネータの組織）では、研修会の満足度を向上させるために、提供された研修内容に先の会社見学会をはじめとする独自メニューをプラスし、一連の流れを形作った。

参加者が話しやすい雰囲気を作るため、初日はオリエンテーションの後に懇親会を実施。また、各社が経営戦略を発表する最終日の前には個別訪問を行い相談に乗るようにしてきた。

### 高まる参加者の熱意 フォローアップ研修も

独自事業となった昨年からは、ITコーディネータの吉田誠氏が講師やサポートを担当。今年は8月から、研修会を実施した。「外部環境の変化に対する危機意識の高まりからか、熱心な参加者が増えている印象を持ちました。

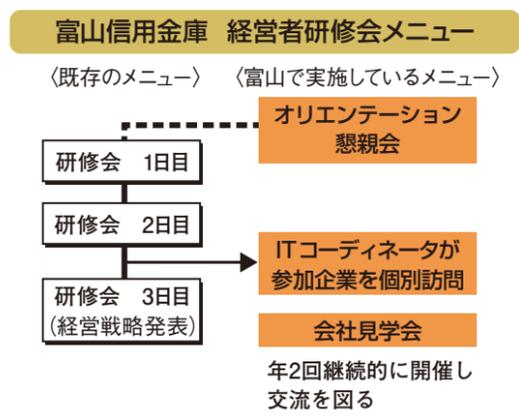
各支店長が研修の内容や意義を理解され、これはと思う企業に声をかけてくださっていることが大きいです」

吉田氏は研修の感触をこのように話す。

最終日には支店長も出席し、研修による成長の結果を目の当たりにする。その実感がまた次年度につながっているようだ。

今年も、参加者から「一緒に研修を受けた仲間と年内にまた会いたい」との要望があり、11月にフォローアップ研修を実施する予定である。

交流の中で、ホームページの活



用などITの課題が出てきた場合は、吉田氏に相談を持ちかける企業も多いという。

岸常務理事は、「継続して卒業生を増やし、変化を乗り越えらるる企業が増えることを期待します。もちろん、代々、信金を好きになっていただくと嬉しいですね」と継続への意欲を示した。



2012年8月2日に行われた会社見学会（第一共同印刷にて）。会社見学会では、特に受け入れ側企業において従業員のモチベーションが上がるという。研修会の「卒業生」は経営者同士。トップセールスで商談が成立することもある。



理事 営業推進部長 白田克己氏

**サポーター紹介**

ITコーディネータ  
吉田誠氏

ITC 富山 会長  
よしだまこと事務所  
代表取締役  
<http://www.yoshidamakoto.co.jp/>

富山を中心に活動する独立系ITコーディネータ（ITC）。地域のITCの組織であるITC富山の会長も務める。国の事業の際には専門家2~3名で研修会を運営してきたが、自主開催となってからは1人で講師や個別訪問を担当。研修会の内容がよりわかりやすいものになるよう、自身が支援した地元企業の経営改革事例を題材にするなど、工夫も行っている。

富山信用金庫は、「親しみやすいキャラクターから、参加者の評判が高く、個別訪問なども精力的に行ってくださっています」と評価している。



2012年の8月から実施した研修会の様子

生を増やし、変化を乗り越えらるる企業が増えることを期待します。もちろん、代々、信金を好きになっていただくと嬉しいですね」と継続への意欲を示した。